

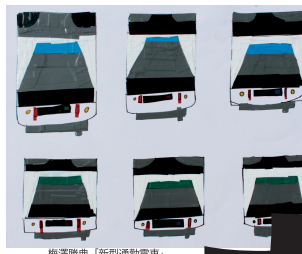


阿部美幸「相合傘」

渡邊あや「飛行機」



納田裕加「のうだま」



梅澤勝典「新型通勤電車」



田中悠紀「茶太郎」

阿部美幸
伊藤裕
梅澤勝典

あ

ひとはどういふ場所にあつまるのでしょうか。
居心地のいいところ？ 刺激的なところ？ 創造的なところ？
埼玉県川口市の「工房集」は、ギャラリーを持ったアトリエとして、
全国に先駆け 2002 年にスタートし、
いろいろな人が集まるところとなりました。

田中悠紀
武石トシ子
西川泰弘

あ

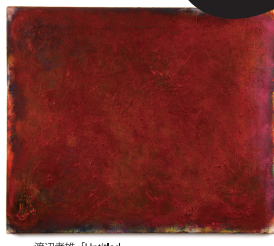


前内裕博「Untitled」

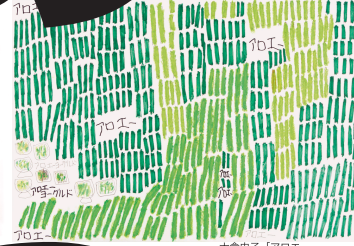
西川泰弘「怒竜の卵」



小森谷章「Untitled」



渡辺孝雄「Untitled」



大倉史子「アロエ」

大倉史子
尾崎翔悟
栗原和秀

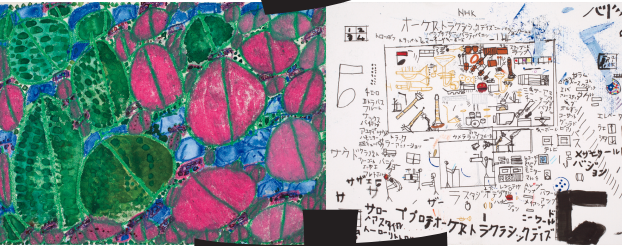
つ

2014年 9月13日(土) — 12月7日(日)

●月曜日休館 (祝日は開館。翌日の火曜日 9/16、10/14、11/4、11/25 は休館) ●
●開館時間 10:00 - 17:00 (入館は 16:30) ●
●入場料 大人：700円 大学生：500円 小中高生・70歳以上・
障害者・重度付添：300円 団体 20名以上：10%割引 (要予約) ●

納田裕加
白田直紀
長谷川昌彦

つ



佐々木侖伍「あじさい」

尾崎翔悟「オリジナルバージョン」



伊藤裕「ジェットコースター」



白田直紀「kiss」



柴田鋭一「せっけんのせ」

小森谷章
齋藤裕一
佐々木省伍

ま

もうひとつの美術館
e-mail: mob@nactv.ne.jp
http://www.mobmuseum.org

前田貴
宮川佑理子
宮里亨

ま

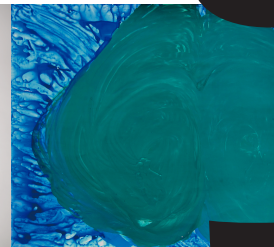


杉浦公治展示風景

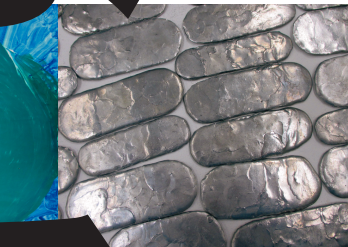
宮里亨「Untitled」



栗原和秀「Untitled」



宮川佑理子「Untitled」



長谷川昌彦「ハンタの延べ棒」

柴田鋭一
杉浦公治
高橋創

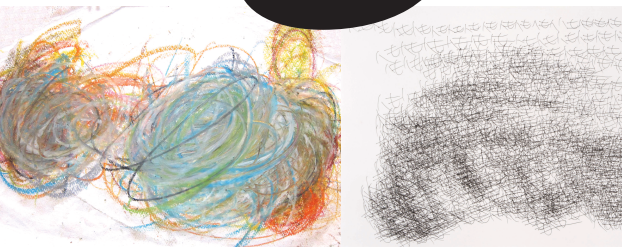
る

●主催 認定特定非営利活動法人 もうひとつの美術館 ●
〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 tel/fax0287-92-8088
●協力 社会福祉法人 みぬま福祉会 工房集 ●

箭内裕樹
渡邊あや
渡辺孝雄

る

中津川浩章



高橋創「Untitled」

柴田鋭一「ドラえもん」



中津川浩章「VISIONS」



武石トシ子「砂漠の植物」



前田貴「美術館」

埼玉県にある、社会福祉法人みめま福祉会は、1994年頃より創作活動を始め、たくさんの芸術性の高い作品を生み出してきた施設です。「もっと創作活動に専念したい、出来上がった作品をきちんと広く紹介したい」との想いから、2002年、全国にさがかけて、川口太陽の家・分場として、福祉施設の運営するギャラリーを併設させた「工房集」(埼玉県川口市)を作りました。本展覧会では、みめま福祉会のいろいろな施設で生まれた作品の数々を集めて紹介し、そして、工房集のアートディレクターである中津川浩章(美術家)の作品も一緒に展示紹介いたします。また、期間中のイベントを通して、先駆的に活動してきた「工房集」を通して、障害者の創作活動支援のあり方をもう一度考えたいと思います。

●出展作家プロフィール

阿部美幸(あべみゆき) 1981年生 好きな人やアイドルの相合傘を書きながら、毎日絵画に没頭している。「絵を描くと落ち着くよ」と言う美幸さん。つらい時は、色鉛筆の芯がなくなるまで、なぐり描きしている。

伊藤裕(いとうゆうたか) 1975年生 正方形のガラス達が螺旋を描きながら連なっている“ジェットコースター”既存のスタンドグラスの概念が吹っ飛んでしまうほどダイナミックな作品もあれば、小物の制作も。

大倉史子(おおくらふみこ) 1984年生 工房集の敷地内を転々とし、好きなメンバーや職員との関わりを楽しみながら描きたい時に描きたいだけ、モチーフはその時のマイブーム。

梅澤勝典(うめざわまさのり) 1980年生 人間力マキリさんは梅澤さんの代表的なキャラクター。それぞれの物語があり、背景がある。いつもラジオを聴きながら、ノリノリで人間力マキリを生み出している。

尾崎翔悟(おさきしょうご) 1988年生 名前や形状だけでなく、音色も含めあらゆる楽器を知っている。集に入ってから始めた絵画は、時に「エア演奏」も交えて描かれる。明るくひょうきん者のエンターテイナー。

栗原和秀(くりはらかずひで) 1984年生 カラフルな木のパーツを昆虫採集の標本のように自由に貼り付けていく。そして、動物や乗り物の絵を描いたものや、小さな木のチップにアルファベットや数字など呪文のように書き加えた作品へと変化した。

小森谷章(こもりやあきら) 1967年生 日課をこなすと、アトリエ内の畳の間に正座して仕事が始まる。ぐるぐると糸を巻きながら高笑い。毎日創作とイタズラに忙しい。糸を巻き続けた作品は、糸の山になった。

齋藤裕一(さいとうゆういち) 1983年生 他の人が仕事に取り掛かる頃「仕事しようかな〜」と、工房内を行ったり来たり、立ったり座ったり。短い時間に集中して描くのは、その日楽しみにしているTV番組名だ。

佐々木省伍(ささきしょうご) 1967年生 みめま福祉会の表現活動の先駆者。絵を描くことは本人にとって主体的にかかわれる大切なもの。目を輝かせながら、集中して描く。

柴田鋭一(しばたえいいち) 1970年生 今や描く行為は気持ちの良いこと、そして落ち着かない時に自らを安定させるものとなった。永遠の謎の“せっけんのせ”を20年以上描き続ける彼は、至ってマイペース。

杉浦公治(すぎうらこうじ) 1970年生 きっかけは家庭で購読の経済新聞。新聞から漢字や言葉抜き取りで書き出し、また、ビデオから気になる部分を何度も観たりする。13年前からニコニコ字を書いている。

田中悠紀(たなかゆうき) 1979年生 お話をするのが大好きで毎日楽しそうにテレビの話をする明るい悠紀さん。その作品は、彼女の住むケアホームで飼っていた犬の“茶太郎”。茶太郎はどれも笑顔だ。

高橋創(たかはしはじめ) 1965年生 クレヨンを手に取り、じっくりその時の気分に合わせて選び、描き出す。思った通りの色や形にならないと、またクレヨン選びからやり直す。20年以上グルグルを続けている。

武石トシ子(たけいとしこ) 1942年生 3年前から絵を描き始める。本などから描きたいものを自分で見つけ、時にウトウトしながら目覚めると黙々と手を動かし、71年の人生の重みを表現している。

西川泰弘(にしかわやすひろ) 1960年生 「絵画活動は僕の人生を最高の人生に変えました。工房集に来て本当に良かったです。」と彼は語る。絵を描くことで、辛い経験をはねのけるように前向きになった。

納田裕加(のうだゆか) 1966年生 小森谷章くんが糸のオブジェを作っているのを見て、納田さんはひらめいた。いらなくなった糸の切れ端を1本1本結んで、原毛や織り糸の空き芯にぐるぐる巻きつけていく。出来上がった作品は、その名も「納玉(のうだま)」。

白田直紀(はくたなおき) 1986年生 画像を見ながら描くが決してそのものではない。細かいペン先を何度も往復させ、独特な色彩を出す。今はとにかく人物を好んで描いている。愛らしくもあり、それでいて不気味さもある彼の世界がある。

長谷川昌彦(はせがわまさひこ) 1984年生 “ハンダの延べ棒”は銅テープに付着したハンダを自らリサイクルして、溶かしたハンダの粒をくっつけて徐々に塊となっていく。ハンダが溶け流れ重なりあう表情は純粋な物質感を感じさせる。

前田貴(まえだたかし) 1970年生 出来る仕事からやりたい仕事へシフトして2年。抑圧されてきた表現への欲求が爆発。作品は既に300作を超える。大好きな乗り物などのモチーフはバラバラに解体される再構築される。抽象化が進むことで作品を見る人との間に出来た謎解きも彼の楽しみである。

宮川佑理子(みやがわゆりこ) 1987年生 「ぐるー、ぐるー」と声を出しながら、ゆっくりとテーブルに置かれた画面に直接手のひらで描いていく。洗濯のりを混ぜた水彩絵の具のつるつるとした感触を楽しみながら、はじめは小さかった動きが次第に大きくなって、まるで画面の中を平泳ぎしているよう。

宮里亨(みやざととおる) 1967年生 みんなが使い残した破材のガラスを集めて、まるでパズルのようにガラスとガラスを組み合わせて作っていく。組み合わせでは外し、自分の気に行ったらガラスをまた組み合わせていく。その姿はまるでジグソーパズルを楽しむ少年のよう。

箭内裕樹(やないゆうき) 1985年生 始めは、自分の好きなものを入れる大小さまざまな形をした宝箱を描いているかのよう。その後、上下、斜めと力強く塗りつぶす。あたかも大事な物を隠すかのように。

渡邊あや(わたなべあや) 1987年生 不安や不満、悩みで大きく揺れていた渡邊さんは、葛藤の中、旅行で乗った飛行機にまた乗りたいという想いから「飛行機」というモチーフを見つけた。

渡辺孝雄(わたなべたかお) 1967年生 どんな人にも声をかけ、笑顔にさせる。作品はキャンバスに直接、絵の具を出し、筆で叩く。それを繰り返し、幾つもの色を重ねていく。作品も孝雄さんにも自然と惹きつけられてしまう、そんな魅力に溢れている。

中津川浩章(なかつがわひろあき) 1958年生 美術家 ブルーパイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティングを制作発表。「工房集」のアートディレクションのみならず他の作家の展覧会も企画したり、いろんな場所でワークショップファシリテーターも務める。教育とアート、障害とアートなど、社会とアートの関係性を継続して問い直す。

イベント EVENTS

●ワークショップ「上手くなくていい、“作る”を体験しよう」

日時：10月5日(日) 10:30-12:00
参加料：1,000円(材料費込/要予約/定員20名)
講師：中津川浩章(美術家、工房集アートディレクター)

●スペシャルトーク「事業所で、どう創作活動をしていこうか？」

日時：10月5日(日) 13:30-16:00
参加料：無料(別に当日の展示入場料が必要です。)
話し手：宮本恵美(工房集スタッフ)
中津川浩章(美術家、工房集アートディレクター)
梶原紀子(もうひとつの美術館 館長)

●妻木律子 ダンスワークショップ 初心者もOK! みんなで楽しくダンス

日時：11月15日(土) 13:30-15:30
講師：妻木律子 <http://www.tsumaki-ritsuko.org/>
参加料：大人1,000円/子供500円(別に当日の展示入場料が必要です。)

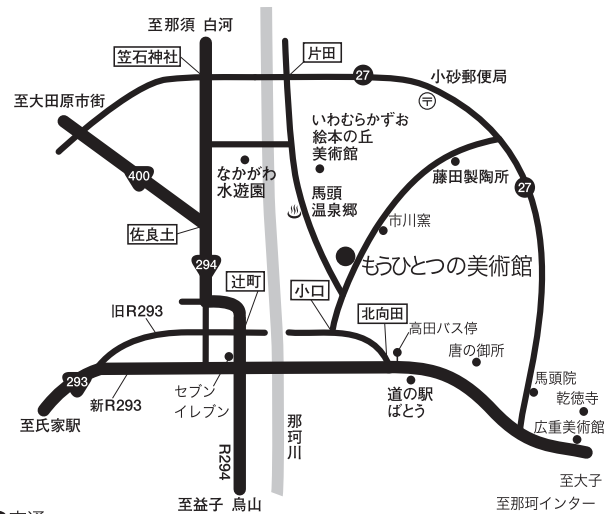
●冬期休館のお知らせ 2014年12月8日(月) — 2015年2月27日(金) ●

「もうひとつの美術館」は、栃木県那珂川町の里山に建つ明治大正の面影を残す旧小口小学校の校舎を再利用して2001年に開設された小さな美術館です。ハンディキャップを持つ人の芸術活動をサポートしながら、「みんながアーティスト、すべてはアート」をコンセプトに、年齢・国籍・障害の有無・専門家であるなしを超え、アートを核に地域・場所や領域をつないでいく活動を行っています。春・夏・秋の年3回の企画展を中心に、様々なイベント・ワークショップを開催しています。もうひとつの美術館は、NPO法人として自主企画・運営を行っており、建物の維持・管理を含め、会員の会費、寄付、入館料によって支えられています。会員、ご寄付いただける法人・個人、ボランティアなどのサポーターを募集しています。2013年1月より、もうひとつの美術館は認定NPO法人として認定され、ご寄付いただくと「特定寄付金」としての寄付金控除を受けることができます。

●ゆうちょ銀行 記号番号 00160-9-535731 ●加入者名 もうひとつの美術館



右側の建物(明治36年竣工)の屋根は、平成26年度日本郵便の年賀寄附金の助成を受けて改修しました。



●交通
JR東北本線氏家駅から東野バス馬頭行き「高田」下車徒歩25分
または、「小川車庫前」下車タクシーで7分
東北自動車道「宇都宮」ICより60分、「矢板」ICより50分
常磐自動車道「那珂」ICより60分

もうひとつの美術館

MOB museum of Alternative Art, Nakagawa
〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 | mob@nactv.ne.jp